

北国のまちの未来予想図

～自分のまちにあてたらプラター～

旭川市



プロフィール

旭川市は仙台市に次ぐ北日本第3（北海道内では札幌市に次ぐ第2）の人口を誇る中核市で上川支庁の支庁所在地。北海道を代表する観光スポット「旭山動物園」と、「旭川ラーメン」で全国的にその名を知られる。海産物や野菜など、美味しいものが集まるグルメの街。夏は30℃を超えるが、冬は日本の観測史上最低気温となる-41℃を記録したこともある寒暖の差が大きい土地である。冬の朝には、ダイヤモンドダストが観察できる。



旭山動物園は日本最北の動物園。動物の自然な生態が見られる行動展示を実施して、一躍有名になった。近年では北海道を代表する観光地として定着し、日本国内だけではなく海外からも数多くの観光客が訪れている。

＜旭川市の人口＞
354,522人（世帯171,874）
（H21年8月末現在）

＜旭川市の面積＞
747.60km²

気候 ～大きな寒暖差

内陸特有の気候で年間の気温差が大きい。夏は緯度の割に暑く、冬は北海道の中でも屈指の寒さとして知られている。1902年には、日本の気象官署での観測史上最低気温となる-41.0℃を記録した。年間を通して風が弱く、冬に地吹雪が発生することはほとんど無い。降水量も北海道内では少なく、全国平均値の半分程度である。夏は真夏日が10日前後記録されるなど北海道にしては高温であるものの、室蘭市や函館市など海岸部と比べて温度が低く乾燥した気候であり、体感温度は低く過ごしやすい。



プラタナス通は、神楽岡・緑が丘地区にある道路である。約3キロにわたって歩道の植樹帯にプラタナスが植えられているが、立派に成長したプラタナスの枝葉が車道の真上を覆いつくしており、「緑のトンネル」と形容されるような見事な並木路を構成している。なお、プラタナスの並木としては国内最大級の規模。

歴史～明治24年屯田兵が入植・明治33年第7師団移住開始

上川地方には2万年前頃から人の生活が始まっている。14世紀前後にアイヌ文化が形成されたが、上川もその文化の担い手であるアイヌの人たちの世界であった。18世紀になって、北海道の重要性に注目した当時の徳川幕府は、この地に多くの探検家を送り込んだ。明治2年に北海道を統括する開拓使が設けられ、蝦夷地を北海道と改称して、11国86郡の行政区画が設定され、上川盆地一体は石狩府上川郡となった。本市は、明治23年9月20日に上川郡に初めて旭川村、永山村、神居村の3村が置かれ、明治24年から開発の尖兵として屯田兵が入植し、旭川は上川を中心として開拓が進められた。明治31年には鉄道が開通、明治33年には旭川村から旭川町に改称され、札幌から第7師団が移駐するなど、産業・経済の基盤が成立し、道北の要としての使命を担ってきた。さらに先人たちの偉大な努力により大正11年8月市制施行、昭和30年から近隣町村との合併が進み、昭和45年に人口30万人、昭和58年には人口36万人を超え、北海道では札幌に次ぐ第2の都市となった。

産業～物流の拠点・軍都・役人の街・米の産地・家具生産・酒造業・近年は観光

集散地・物流の拠点として発展。かつては「旭川商人」という言葉もあった。農業が盛んで、北海道における良質米の生産地として知られる。[[神居古潭]]地区では、[[リンゴ]]や[[サクランボ]]などの果樹の生産がみられる。[[ソバ]]の生産量は国内第3位。日本の五大家具産地の（[[旭川家具]]）の一つにも挙げられている。酒造業も盛んで、「北の灘」とも呼ばれている。近年は旭川市旭山動物園の躍進によって観光客数が大幅に増加し、上期観光客数で[[小樽市]]や[[函館市]]を抜いて北海道内第2位となった。



3・6（さんろく）は旭川市にある歓楽街。1,000店を超える飲食店が一帯にひしめき、華やかなネオン街を構成している。

食べる～「旭川ラーメン」「塩ホルモン・豚トロ発祥の地」

地理的に北海道の中心部にあって物流の拠点でもあるため、日本海・太平洋・オホーツク海の新鮮な魚介類や、上川地方特産である野菜を低価格で食べることが出来る。焼肉やジンギスカン・旭川発祥の塩ホルモン・ジュンドッグが名物。旭川名物のラーメン店も多いが、市内にはずいぶん多い。またお菓子もおいしい。



旭川八景



旧旭川信託
旭川市彫刻美術館
受け継ぎし輪舞の場



嵐山と嵐山からの眺望
我が街、望みて



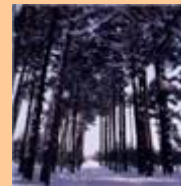
旭橋
曲線美の浪漫



常磐公園
集いて楽しむ



神居古潭
神話やどりし溪谷



外国樹種見本林
ヒロインに心重ねて



平和通買物公園
歩いて主役、街の顔

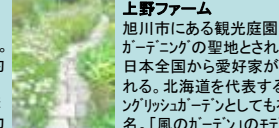


ダイヤモンドダスト
冬の贈り物

旭川の自慢



JR旭川駅新駅舎
平成22年10月にプレオープン予定。河川公園と一体的な旭川らしい景色が広がる。樹林構造の構造美も魅力



上野ファーム
旭川市にある観光庭園。ガーデニングの聖地とされ、日本全国から愛好家が訪れる。北海道を代表するイングリッシュガーデンとしても有名。「風のがーデン」のモデル

- 旭山動物園 ●平和買物公園 ●寒暖差の大きな多雪気候

旭山動物園の目指すところは「自然との共生」。平和通買物は「歩行者優先」の思想。このような自然や人にやさしい思いが厳しい気候の中で生活を豊かにしている。

そんな旭川の「困った」ところ

- ・動物園以外に観光の目玉となるものがない
- ・中心部の空き店舗化（丸井今井の再活用）
- ・雇用が少ない（職業安定所だけは活気がある）
- ・公共交通機関の利用者の減少
- ・人口の減、高齢化

- ・企業の支店・営業所が撤退していく（札幌に近い）

- ・平均所得が低い
- ・保育所が足りない
- ・芸術・文化への関心・理解度が低い
- ・デートスポット・性風俗が少ない
- ・ナンパがしやすい環境